

## 「支部長室」

異常気象により、世界各地で色々な災害が起きています。元日に起きた石川県能登地方の地震災害は、真冬の中で数多くの家屋の倒壊や断水や、道路の隆起や陥没により、復旧工事の妨げになっています。

真柱様の年頭あいさつでは、「おふでさき」では、地震などの天災を、月日の残念、立腹と仰せになっている事を踏まえ、「それは、教祖の教えを信じ、教祖の道を通らせて頂くお互いの、心の成人の鈍さに対する厳しいお仕込みであると思う」と指摘。

年祭活動の2年目を迎える中、厳しいお仕込みに対して、どの点をお知らせ下されているのか、色々と振り返り、思索して、気付いた所が有れば改めて、歩みを進めるよう促された。

教祖140年祭へ向かう三年千日の歩み方が大切であるとして、三年千日は準備期間では無く、すでに本番であり、普段とは違う緊張感をもって歩む時であると明示され、「今は何をしなければならぬ旬であるか、各人の立場で何をしなければならぬかを見失わずに、年祭への活動を着実に進めていかなければならないと思う」と話された。

更に、地震と云う大ごとを受けて、心が倒れてしまったり、気持ちは有るが動くにも動けなかつたりする人に対しては関わる人がしっかり心を通わせ、一日も早く立ち直るご守護を頂けるよう努めるとともに、年祭へ向かって歩もうとする人、一人でもご守護頂く為の丹精もしっかり進めて頂きたい。求められた。

◎(1月17日号 天理時報より)

## 「足立支部婦人会初例会開催報告」

去る1月31日、星藤分教会を会場に、婦人会初例会を行いました。

内容はおつとめ、論達拝読後、藤波芳雄先生のお話しを頂き、陸芦分教会長の奥様のお話しを頂き、年祭活動の時旬にお見せ頂く事は深い親神様の想いが有ってこそ、逃がしてしまわない様に、向き合うことが大切と、聞かせて頂きました。

それぞれの信仰に対する思いをどう繋げていくか、今、思う所をねりあう機会となり、また、食事をしながら和やかな時間を過ごすことが出来ました。

今後共、足立支部婦人会活動へのご協力を、宜しくお願い致します。

## 「足立支部お餅つきを開催」

去る、1月28日(日)浅草大教会を会場に、支部のお餅つきが行われました。

前日の27日には、餅米とぎや、参加者受け入れの準備が用意され、朝早くから餅米蒸しや、臼や杵の支度が行われ、第1回目に蒸された米は、石臼に移され、3人かかりで、米を練り上げて、先は大人の大きな杵で餅つきが始まりました。

ある程度につき上がった所で、少年会員にも、餅つきを経験してもらい、交替を重ねた後、仕上げの餅つきの後、出来上がった餅をお湯に取り、婦人会の手により、小さく食べやすい様に契り、集まった人々に、餡こやキナコや胡麻砂糖、雑煮汁、納豆などに各味つけをして、食べて喜んで頂きました。

受付の記録では、大人、子供を含めて48名が参加しました。

担当者のみなさん、準備や片付けのひのきしん、大変ご苦労様でした。感謝!

### 災害救援隊・本部隊能登の石川県 『令和6年 能登半島地震被災地へ』

元日の午後に石川県能登地方で発生した地震災害から、2週間余りが経過した現在も活発な地震活動が続き、降雪の影響も有るなか、現地では被害状況の把握やインフラの復旧などが難航し、いまだボランティアの受け入れ状態が十分に整っていない。

本部の災害救援ひのきしん隊（災救援橋本武長本部長）、石川教区隊（忠谷真一隊長）の一次隊は5日から7日にかけて、断水が続く七尾市へ出動。救援物資を届けた他、災救援本部から借用した給水車2台を使って被災住民に飲料水を提供した。更に9日から11日にかけて第2次隊が、13日から15日にかけて第3次隊が出動し、延べ113人隊員が救援物資の搬出を行い、飲料水を供給したほか、輪島市内の避難所の運営をサポートした。

こうしたなか、天理教災害対策委員会（仲野芳行委員長）は、石川県内の避難所の要請を受け、被災地へ本部隊の派遣を決定。16日から本部隊をはじめ石川、福井、新潟の各教区隊が出動する事に、

15日午後、金沢市の石川教務支庁に本部隊と石川教区隊が集合し、結隊式が行われた。

翌16日、本部蔵は輪島とす珠洲の両市の避難所へ急行。輪島市の避難所では福井教区隊と共に、珠洲市の避難所では本部隊に先駆けて14日から出動している新潟教区隊と共に、初動救援に着手した。

輪島市の現場では避難所の運営をサポートした他、珠洲市の避難所では、避難者200人分の食事の調理や、避難所のトイレ清掃、ゴミ収集などに力を尽くしている。

また石川教区隊は、七尾市で給水活動を継続。

「命の水」を避難者にとどけている。

### 「足立支部 地震被災地に支援活動」

石川県能登の地震災害被災地に足立支部より、第1便として鶴巻裕二郎さんと町田一隆さんが、1月13日、救援物資、トイレトバック（排泄物用の黒い袋）凝固剤、ウェットティッシュ、身体拭きシート等をスタッドレスのワゴン車に満載して、夕方東京を出発。群馬経由して、本導分教会からの小松菜をご提供頂き、珠洲ひのきしんセンター納入完了。このひのきしんセンターは被災者でもある石橋さん（寶立分教会長）、矢田さん（北乃洲分教会）このお二人がセンター代表をお勤め下さり、救援物資受け入れや、炊き出し団体のコーディネートをして下さっています。鶴巻さん町田さんは14日と15日に勤められました。

今、必要とされている事は人材です。長い期間を勤められる方を捜しています。

希望される方がありましたら、ご連絡下さい。お待ちしております。

## 「災救援基金」について

天理教災害対策委員会（仲野芳行委員長）では、「天理教災害救援ひのきしん隊基金」を常設し、救援活動のさらなる拡充のために運営させていただいております。

このたびの「令和6年能登半島地震」による被害が拡大している現状に対し、同基金を通して広く教内の真心を結集し、災救援の活動支援および被災教区への復興支援に活用いたします。

ので、何卒、同基金のうえにお心寄せを頂きますようお願い申し上げます。

寄付方法は、災害対策委員会指定した口座への振り込みのみとします。天理教ホームページから、寄付方法などの詳細をご覧ください。

天理教災害対策委員会

詳細はこちらから

